

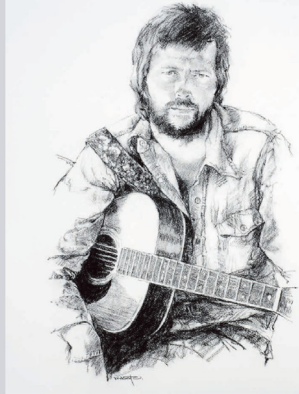
各 位

2025年4月11日
株式会社リットーミュージック

エリック・クラプトンに魅せられ「エリックな人生」を歩んだ愛すべき人々の記録
伝説のギタリストを愛する、すごすぎる EC マニアがここに集結！



インプレスグループで音楽関連のメディア事業を手掛ける株式会社リットーミュージック（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：松本大輔）は、『NO ERIC, NO LIFE エリックに捧げた僕らの人生』を、2025年4月11日に発売しました。



高校1年生の時に、クラプトンが大好きな5人の仲間と「Sunset Boulevard」というバンドを結成した。これは前身でもあらず、決していいバンドとはいえない。しかし、そのサンセットが崩壊して「48時間連続で練習している」となると、話は別だ。広範囲に活動し、関西を中心に活躍するサンセットは、現在も定期的にライブを行い、毎年のライブツアーに誘われている。ここで紹介する和田玄さんは、そのキネキスと活動の中心にクラプトンと関係が、コアなクラプトン・ファンとして知られている。クラプトンと関係が、クラプトン・ファンとして知られている。クラプトンと関係が、クラプトン・ファンとして知られている。

マニアとしても知られ、ギター誌から執筆依頼がくるほどギターへの関心が強い。また近年は、日本を代表するクラプトン・ミュージシャンとして、エリック・クラプトンと関係が、クラプトン・ファンとして知られている。クラプトンと関係が、クラプトン・ファンとして知られている。



INTERVIEW

和田玄

EC研究者/ECギターコレクター
GEN WADA

選んだ相手がきっかけ

●和田さんは長年クラプトンと関係が、クラプトン・ファンとして知られている。クラプトンと関係が、クラプトン・ファンとして知られている。

いっしょに楽しみながらギターを好きで、それからジューズ・ベックなどにギターだけを弾くクラプトンよりも、エリック・クラプトンのように弾いてくれるクラプトンが好きなんですよ。エリック・クラプトンと関係が、クラプトン・ファンとして知られている。



Part. 2
WADA COLLECTION

和田コレクションで綴る クラプトンの歴史

エリック・クラプトンに関わるギターやヴィンテージ・ギターのコレクターとして知られ、執筆活動でも知られるDR.GENと和田玄氏。前号「Part. 1」のインタビューに続いて、後半「Part. 2」では、クラプトンの半生が描かれていく。クラプトンと関係が、クラプトン・ファンとして知られている。

という訳ではない。また、20年以上に渡る取集めの中で手に収めてしまったり、例えばザ・エリーレッドのES-335のように長く使用されたギターに関しては、必ずしも使用された経緯ではなくクラプトンが入手した経緯に置かれている。和田氏の集めたクラプトン・ギターの歴史とクラプトンと関係が、クラプトン・ファンとして知られている。

THE ROOSTERS
1963.1-1-8



これはほぼハーヤムに贈られた、キックは強すぎるという理由で、しかし、それはそのギターにこそある。クラプトン・ファンとして知られている。

THE YARBIRDS
1963 Fender Telecaster Neck with Custom Made Body



THE YARBIRDS
1963.10-1965.3

●002
1963 Fender Telecaster Neck with Custom Made Body
1964年7月12日発売の「The Yarbards」の「Fender Telecaster Neck with Custom Made Body」を贈られたクラプトンと関係が、クラプトン・ファンとして知られている。

クラプトンと関係が、クラプトン・ファンとして知られている。クラプトンと関係が、クラプトン・ファンとして知られている。



「コスプレ」といって、一般的にはマンガやアニメーションの主人公が、ゲームに登場するキャラクターの服装やヘアスタイルを真似て楽しむことを言うが、近年は新着や定番のファッションを模倣することもコスプレと呼ばれている。ここで紹介するドイツ在住の亀井敏夫さんは、エリック・クラプトンに憧れ、クラプトンのすべてを模倣しているコスプレイヤーの一人。しかし、彼のコスプレはともチャップマン、背くほど細かい。ステージ衣装や靴のファッション、数珠、靴やメガネなどの身の回りのモノはもろもろのこと、演出、ギター、ストラップロック、自撮の裏

景やアート、さらには趣味のクリケットのボールに至るまで、クラプトンの周辺物を徹底的に調べ、日夜模倣することを趣味としている。本人の周辺物を徹底的に研究しコレクションすることで、クラプトンの思考回路を再現し、クラプトンへの道を歩んでいるという亀井さんに、クラプトン・コスプレの楽しみと難しい点について聞いた。後半では、亀井さんが長年蓄へ上げたクラプトンの周辺物を紹介すると共に、おなじみクラプトン・マニアの世界を紹介しよう。これらのクイズをコレクションすれば、おなじみクラプトンになれる一歩も引かない。

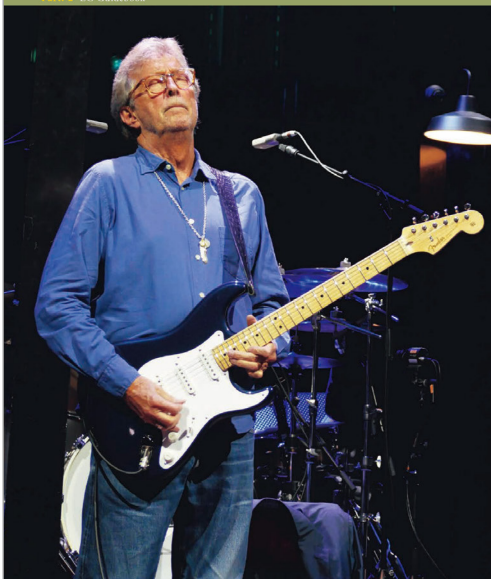


INTERVIEW 亀井敏夫 EC研究者 / ECコスプレイヤー HIRO KAMEI

その頃からエリックの深堀が...

●亀井さんが、最初にエリック・クラプトンの存在を知ったのはいつ頃ですか？
エリックさんにたどり着く前に、まずビートルズを知るようになりました。小学生の頃、お母さんがビートルズの曲を聴かせたことが「ONE」(2006年)が発表されたんです。それも父親が買って来たんです。イギリスやアメリカのシンガム・ヒートシートで遊んでいた時に、お母さんがお土産を買って来てくれたんです。それが音楽と縁の始りでした。そこで「ビートルズって面白いな」と感じて、その縁を辿ってビートルズのアルバムを借りて聴くようになりました。それでビートルズがジョージ・ハリスンのアルバムのカバー

ノーツを読んでいたら、「エリック・クラプトン」というギタリストの名前が映り出てくるので、そこで初めてエリックさんの存在を知りました。
●なるほど。
その後は図書館でCDを借りるようになりました。最初は、お母さん「エリック・クラプトンのアルバムを聴いてみよう」と言っていて、最初は聴いたのが「スローハンド」(1977年)でした。その時は「ビートルズとは全然違う音楽だな」というような印象があったんだよね。そこで買って聴くのを止めた。
●それまで、他の音楽や邦楽はどんなアーティストを聴いていたのですか？
最初はあまり他の邦楽アーティストを聴いていなかったんです。父親が音楽が好きで



エリックになるための完全マニュアル

ギターや歌が下手でも
“エリック・クラプトンな気分”が
味わえるガイドブック 亀井敏夫

人は一般的に、自己表現“でっけ”を始め、小学校の音楽授業は好きとされている。ところが、“でっけ”がなかなか止まらないまま大人になった人も多く、エリックのコンサートでは多量に“エリック”を真似ている人々が目撃されている。本人と同じ服装を真似、同じ靴を履いて、同じシャツを着ている人を見て、“ドヤッ”としたことのある人もいる。そのように、大人になっても“でっけ”が止められないために「エリックになるための完全マニュアル」と題して、後の「真・真」に該当するガイドブックを作成した。エリックのステージやライブの模様、自宅の写真、ツアー

イアリーの頃の模様を写し、エリックのファッションや身につけているアクセサリー、愛用靴や愛用物の紹介。さらには自宅での生活ぶりなど、細かい研究・検証。どうしたらエリックに近づくことができるのかを徹底的に分析した。必ずしもエリックになるためには、必ずしもギターや歌が下手でも、ちゃんとエリックな気分が味わえるガイドブックで、憧れを叶えたい。このガイドブックを参考にすることで、おなじみエリック・クラプトンになれる。かも引かない。



定価：3,080 円（本体 2,800 円＋税 10%）

発売：2025 年 4 月 11 日

発行：リットーミュージック

商品情報ページ <https://www.rittor-music.co.jp/product/detail/3124351004/>

●本書に登場する人物

・和田 玄（EC 研究家／EC ギター・コレクター）

Part1 インタビュー

Part2 ワダ・コレクション

・榎富 司（EC カー／EC ギター・オーナー）

・マイク・ソーウィン（EC 研究家／ライブ音源コレクター）

・ダン・ディーンリィ（専属ギター・テクニシャン／ギター・ルシアー）

・前 むつみ（翻訳家／通訳）

・亀井紘夫（EC 研究家／EC コスプレイヤー）

Part1 インタビュー

Part2 エリックになるための「完全マニュアル」

・ニコス・ペラティコス（クロスロード・センター・アンティグア CEO）

・小山 ルミ（クリーム限定コスプレイヤー）

・トニー・エドサー（オフィシャル・ファンクラブ会長／WHERE'S ERIC 編集長）、他

・吉野慎一郎（EC 研究家／写真家）

PROFILE

田中 稔（たなか・みのる）

1952 年、東京都生まれ。1975 年秋に出版社プレイヤーコーポレーションに入社。広告営業部、編集部にて月刊音楽雑誌『Player』の制作を担当。編集長、発行人を経て 1997 年に代表取締役就任。以降も『Player』の制作、数々の別冊、ムック本などの書籍を手がける。48 年間にわたり『Player』関連の仕事に深く関わった。現在フリーランスの編集者として活動中。エレクトリック・ギター、ヴィンテージ・ギターに精通し、アコースティック・ギターとウクレレの演奏を趣味としている。

【株式会社リットーミュージック】 <https://www.rittor-music.co.jp/>

『ギター・マガジン』『サウンド&レコーディング・マガジン』等の楽器演奏や音楽制作を行うプレイヤー&クリエイター向け専門雑誌、楽器教則本等の出版に加え、電子出版、映像・音源の配信等、音楽関連のメディア&コンテンツ事業を展開しています。新しく誕生した多目的スペース「御茶ノ水 RITTOR BASE」の運営のほか、国内最大級の楽器マーケットプレイス『デジマート』や T シャツのオンデマンド販売サイト『T-OD』等の Web サービスも人気です。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証スタンダード市場 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社リットーミュージック 広報担当

E-mail: pr@rittor-music.co.jp